

## “石の上にも3年ではなく、10年間辛抱できるか・・・”

『石の上にも3年』ということわざがあります。これは、「辛く苦しくても、辛抱強く努力を続ければ、いつか必ず報われる」という意味で、なぜ3年かというと「冷たい石の上でも3年間も座り続ければ、自分の体温で石が温まってくる」と言うことだそうです。なので、3年間というのは、決まっているわけではなく、ある程度の長い期間（しばらく）という意味で、石の上とは、座るには冷たくて硬い、つまり「自分にとっては厳しい環境、困難な状況」を意味しています。では、『10年間辛抱できるか・・・』というのは、劇団四季で芸術総監督をされている方の言葉で、オーディションのときに必ず監督が質問することだそうです。すると誰もが、「できる」と答えますが、実際は1年以内にほとんどが辞めてしまうようです。芝居でも何でもそうですが、人それぞれで伸びるテンポが違うので、自分だけの時計を持たないといけない。しかし、人はすぐに「自分はなぜあの人のようになれないのだろう」とついつい他人の時計を覗いてしまい自分を見失ってしまうのです。逆に器用にできなくても10年から15年やっていると自然にテクニックが身について上手くなっていくのです。声もいまひとつで、身体能力が高くなくても・・・、あるのは根性だけという人が10年地道にやると結構いいバイプレーヤーになります。器用にできない分、苦勞し、人格的に深みが出てきます。訓練に耐える力も、じっと待つことができる力も、芝居を愛し続ける資質も全て才能なのですと監督はこう話していました。皆さんはこの監督の話聞いて、どう思いますか？確かに何でも器用にすぐにできる人もいれば、時間をかけてやっとできる人もいます。ただ、長続きしている人はというと必ずしも器用な人ばかりではないのです。器用だろうが不器用だろうが、関係ないのです。長く続けられるかどうかは、「好きこそものの上手なれ」と言われるようにそのことに対して情熱があるかどうかなのです。皆さんは、将来競争社会で生きていく人が数多くいると思います。当たり前ですが、そこでは、みんな平等ではありません。理不尽、不公平なことも多々あります。勉強やスポーツ、習い事でそういう経験をしている人もいますが、競争社会はもっとシビアです。そこで、自分らしく生きて行くには、まずはそのことに対して10年間辛抱できるほど好きになることです。それができればきっとやっているとしたいと思います。そのためには、日頃から基本を大切にすることを忘れずに持ち続けることです。人は、少しできるようになると、面倒になり、基本を疎かにし始めます。そうするとつまらない怪我をしたり、以前できていたことができなくなったり、大切なところで大きなミスをしたりします。仕事も勉強もスポーツも何でもそうですが、本当に好きなことに全力で立ち向かうなら、基本を大切にすることを忘れないことです。これが10年間辛抱できる秘訣だと思います。新しい年が始まって2週間が過ぎました。新年に決めた目標に向かっていきますか？ギアを上げていますか？3学期は、あっという間ですよ。